

平成 22 年度 学校自己評価システムシート (県立進修館高等学校)

目指す学校像	明るく活力にあふれ、「進徳修業」の精神に満ちた人間を育成する、地域が誇りに思える学校。
--------	---

重点目標	1 確かな学力の向上と進学・就職実績の向上 2 規律ある態度と豊かな心の育成 3 学校情報の積極的な発信と地域との連携
------	---

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

出席者	学校関係者	8名
	生徒	1名
	事務局(教職員)	8名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価					年 度 評 価 (2 月 2 8 日 現 在)		
年 度 目 標					達成	次年度への課題と改善策	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標			評価項目の達成状況
1	<ul style="list-style-type: none"> ○進路実現を確実にするための教育課程の作成、総合学科の系列の見直しを検討中。 ○多様な教育システムの利点が生徒一人一人の進路実現に十分生かされていない。 ○生徒一人ひとりの学習意欲を高め、学力の向上を図る取組を一層推進する。 	①ガイダンス機能の充実 ②授業改善の推進と確かな学力の定着	①進路ガイダンス、就職ガイダンスの充実 ②教科内研修の充実、各教科による研究授業の実施 ②個別指導体制の確立 ②工業学力向上委員会の取組の充実 ②チャイム トゥ チャイムの徹底	①進路実現に向けた適切な科目選択ができたか ①生徒、保護者の満足度が増加したか ②教科内研修の取組が学力の向上につながったか ②欠点者が減少したか ②チャイム トゥ チャイムの徹底が、授業に対する生徒の意識を高揚したか	<ul style="list-style-type: none"> ・適切に科目選択ができた生徒の割合は73%(昨年度と同数)。 ・生徒の進路選択を確実にする新しい教育課程を作成した。 ・生徒の満足度は65%(マ付5%)。保護者の満足度は85%(±0)。 ・学力向上を目指す教科内研修は今後の課題。工業学力向上委員会の取組は定着。成績優良者数・不振者数が共に増加。 ・チャイム トゥ チャイムの徹底は不十分。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンス機能を充実させ、新しく作成した教育課程に基づいて、進路実現に向けた適切な科目選択を実現する。 ・教科内研修等の充実によって授業改善と生徒の学力向上を図る。 ・チャイム トゥ チャイムの徹底を推進し、生徒の学習意欲の向上を目指す。
1	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒一人ひとりの進路意識の高揚を図る取組を一層推進する。 ○放課後等の進学補習、個別指導を充実させる。 ○3年間を見通した組織的・計画的な進路指導の更なる充実。 	①生徒の進路希望を実現する、きめ細やかな進路指導の推進	①組織的な補習体制の確立 ①高大連携、キャリア教育、インターンシップの充実 ①就職希望者に対する、1年次からの組織的・継続的な指導(意識付け、面接指導等) ①資格取得の推進	①補習体制の充実により補習参加者が増加したか ①進学実績が向上したか ①就職内定率が向上したか ①進路室が有効活用されたか ①資格取得が増加したか	<ul style="list-style-type: none"> ・土曜補習・夏季補習・サテライトによって生徒の学習を支援した。補習参加者はやや減少。 ・大学進学者が増加し、短大が減少。一般入試の実績が向上。 ・就職内定率96%(昨年度91%)。 ・埼玉県高校生専門資格等取得表彰者は、工業系が昨年度の5名から11名に、商業系が16名から26名に、それぞれ増加。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の補習授業に加え、放課後の進学補習を全校的な規模で実施して、進学率の向上を目指す。 ・就職希望者に対する組織的・継続的な指導を実践して、内定率の向上を図る。 ・生徒の資格取得に対する意識の向上を図り、資格取得者の増加を目指す。
2	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒の規範意識の向上を図るための取組を充実させる。 ○多様な生徒に対応する、生徒理解・生徒支援活動を充実させる。 ○校内のすべての部活動を活性化させる。 	①組織的・継続的な生徒指導の推進 ②生徒支援体制(教育相談、カウンセリング等)の充実 ③部活動の加入率の向上と活性化	①生徒指導部と各学年の連携強化と、組織的・継続的な生徒指導の推進 ①生徒の規律ある態度・豊かな心の醸成 ①生徒が安心・安全に過ごせる学校づくりの推進 ②教育相談(生徒、保護者等)体制の充実 ③部活動の活性化と活動成果の向上	①地域に信頼される学校づくりを推進することができたか ①あいさつ等がしっかりとできたか ②生徒がいつでも相談できる体制をつくることができたか ③部活動に意欲的に取り組む生徒が増加したか	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部・学年との連携による組織的な指導体制は確立されつつある。 ・学校内外の巡回指導や生徒、保護者による安全指導を計画的に実施している。 ・全学年が「挨拶の励行」を目標に掲げて取り組んだ。 ・部活動加入率は依然として低調だが、関東・全国大会への出場数と実績は向上した。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・挨拶の励行や基本的生活習慣の確立を目指し、積極的な生徒指導を推進する。 ・放課後の時間を有効活用し、部活動の活性化や教育相談体制の充実を努める。 ・保護者と連携した校門指導、生徒安全委員会の活用、校内外の巡回指導等を通じて、安心・安全な学校づくりを推進する。
3	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校、地域に対する教育活動の情報提供は定着し、注目度は向上している。 ○今後も地域連携を深めるとともに、学校評議員、学校評価懇話会委員等の意見や提言を教育活動の改善・充実に反映させる。 	①学校情報のPR活動を一層推進する ②中学生、保護者等に対する本校の理解度の向上の推進 ②学校評議員会の充実	①学校説明会(工業体験実習)の充実 ①開放図書館の利用促進 ①授業公開の充実 ①進修館通信、学校HPの更なる充実 ②小中高の連携の強化 ②学校評議委員会、学校評価懇話会の活用 ②学校評価アンケートの実施と活用	①学校説明会(工業体験実習)の参加者が増加し、入試倍率が向上したか ①授業公開の参加者が増加したか ②地域関係機関との連携を深めることができたか ②教育活動の改善を図るために、幅広く意見を聞くことができたか。	<ul style="list-style-type: none"> ・HPを日々更新するなど積極的な情報発信に努めたが、説明会参加者や入試倍率は微減。 ・小・中学校の保護者を対象とした授業見学会(52名参加)や近隣中学校への出前授業等によって地域との連携を深めた。 ・学校評議員・懇話会委員から様々な提言があり、教育活動に生かしている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校説明会、進修館通信、学校HP等を通して、教育活動の情報提供を一層推進する。 ・地元PTA連合会、市教委、市の関係課との連携を深め、地域に根ざした学校づくりを推進する。 ・学校評価アンケートの結果や学校評議員・懇話会委員等の提言を教育活動に生かす。

学 校 関 係 者 評 価		
実施日 平成23年 3月 2日		
<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の学校に対する満足度が高い。学校の取組が保護者によく伝わっており、学校を信頼している証拠である。 ・生徒の満足度は、学校生活に不安を感じると下がる。 ・学期制の変更、生徒と向き合う時間の確保など、学校改善に努めている。今後の取組に期待したい。 ・生徒は、教員の指導によって自分の望む進路を実現する。不安のある生徒には教員の影響力が特に強い。そういう関係を作って欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・就職のためには、人間形成が大切である。 ・就職内定率が向上するなど、進路指導の実績が向上しており評価したい。 ・自分の進路目標をきちんと持てるように指導してほしい。 ・指定校推薦を適切に活用して、進学指導を実践してほしい。 ・就職内定率は向上しているが、生徒が希望した所に就職できるかが重要だ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の基本は、生徒ときちんと向き合い、しっかり見つめることである。 ・生徒指導は、よく落ち着いている。 ・学習以外でも、あの学校の生徒はすばらしいという評価が得られるようになってほしい。 ・核家族化が進んでいる。保護者のしっかりとした家庭教育が大切である。学校と家庭が連携して、生徒の育成に努めてほしい。 ・生徒指導は最初が肝心だ。入学時からきちんと指導する必要がある。 ・部活動は特徴が必要だ。成果を上げて欲しい。
<ul style="list-style-type: none"> ・学校情報の発信にはよく取り組んでいるが、今後、最も力を入れるべき部分である。 ・行田市市内唯一の高等学校であることを理解していただいて、地元からの入学者の増加に努めてほしい。 ・学校評価アンケートの中で、「家庭で保護者と話すようになった。」という割合が増加している。教育の成果である。 ・中学生は、先の進路を考えて高等学校を決める。進路実績をきちんとPRする必要がある。 		

